

## DAAの社会参加活動 —「こどもの科学教室」の場合—

ダイヤ財団は、1999年に賛助会社の企業退職高齢者を組織したダイヤ・アクティブ・エイジング(略称DAA)を発足させ、シニアが自主的に活動することにより、「活力ある高齢社会」実現をめざした社会参加活動を展開しています。今回は、DAA活動グループの一つで神奈川県在住の三菱系企業退職者の集まりである、ダイヤかながわ交流会有志の「こどもの科学教室」を題材にして活動の詳細を調査し、その社会参加活動の成功のポイントについてまとめた結果をお知らせします。

### 「こどもの科学教室」の人気の秘訣はどこに？

#### ●はじめに

この教室は、ダイヤかながわ交流会有志が社会問題化している子供の理科離れを危惧して、青少年を対象にした活動テーマを主体的に設定し、企業経験を活かして教室を組織的・継続的に運営している点で先進的です。また、学校の教育内容にとらわれることなく、子供が体験を通して理科に興味を持てるよう種々工夫している点で、特色あるボランティア活動であると言えます。

#### ●教室の内容

「こどもの科学教室」(以下、教室)は「宇宙」「海洋」「環境」「電気」「光学」「生命」「液晶」の7つのテーマ別教室を持っています。実験や企業展示館の見学などを織り交ぜることにより、子供が実際に実験模型あるいは最新技術の展示物や製品に触れ、楽しく体験しながら理科に興味を持つような工夫をしているのが、この教室の大きな特徴です。



宇宙教室

横浜市内の三菱みなとみらい技術館に展示されているロケットエンジンを前にして、講師が横浜市の小学生に説明をしているところです。子供たちは、ゆっくりとやさしく語りかける講師の話に聞き入っています。

#### ●教室の概要

##### 1. 運営実績

メンバーは24名、平均年齢69歳、全員が男性です。対象とする子供たちは横浜市内の小学校1年生から4年生が中心です。2004年8月の開講以来2006年3月末まで計34回開催し、参加者は延べ生徒数831名、延べ保護者数269名で、保護者の協力も得て運営されています。

##### 2. 開催場所・開催方法

開催場所は横浜市内を中心に、企業の展示館・研究所、学校やコミュニティーハウス、県や地域の活動センター、自治会集会所などを利用しています。開催方法には、施設に子供を集めて行う方法と、子供が集まっている場所に講師が向かいに行く方法(通称「出前教室」)があります。教室開講当初半年ほどは、前者の子供集めと引率で大変苦労したのですが、現在は地域からの要請もあり、後者の「出前教室」が中心になり、地理的にも活動範囲を広げています。

##### 3. 役割分担

講師役を務めるのは、現役時代に研究開発や製造部門だった技術系出身者12人で、メンバーの半数を占めます。講師役は専門・非専門に関係なく、長年企業で培った経験と知見をもとに、最新知識の摂取に不断の努力をし、パソコン技術を生かした楽しい教材作りに取り組み、テーマ別教室を担当しています。会計・広報は、事務系出身者です。子供集めは教室にとって重要な役割ですが、営業系出身者が担当しています。

##### 4. 外部の協力者

講師役の教授法向上のため、子供への接し方・話し方、カリキュラムの作り方など、横浜市教育委員会推薦の校長経験者から指導を受けて活動しています。また、メンバーの出身企業からの場所提供・製品貸与など、この教室ならではの協力を得ています。そして、2005年度から長寿社会開発センターの助成を受けて活動しています。さらに新聞(『日本経済新聞』2006

年4月8日、『日刊ゲンダイ』2006年5月9日)や地域のケーブルテレビ(横浜市都筑区2006年1月放映)などにも取り上げられています。

## 5. 活動のやりがい・楽しみ

メンバーのやりがいとして「話に聞き入る子供たちの目の輝きは最高!」「子供や保護者からの感想や感謝の手紙が嬉しい」、楽しみとして「同じ志を持つ仲間と活動できて嬉しい」「教室終了後のビールが美味しい」など、活動自体のやりがいや楽しみが活動継続の原動力になっているようです。

### 企業経験や社会性の高さが 成功に結びつく

この活動を企業退職高齢者の世代間交流活動の一事例として取材・調査するため、各テーマ教室や連絡会議に参加し、さらにメンバー全員へのインタビューを実施しました。この活動を「企業退職高齢者のユニークな取り組み」として捉えるだけではなく、得られた知見から、企業退職高齢者の社会参加活動の成功の秘訣を探ることに着目して調査結果をまとめました。教室の活動の成功のポイントは、以下の通りであると考えます。

まず第1に、組織運営に企業経験が生かされていることです。役割分担を明確にした組織で、継続的かつ円滑に教室を運営している点に、企業経験が活かされているといえます。

第2に、時宜にかなった活動テーマの設定であることです。教室は、社会問題化している子供の理科離れに対応した活動テーマの設定で、企業経験を活かして子供の役に立ちたいという、企業退職高齢者の思いが社会の関心に一致した例だといえるでしょう。だからこそ、ダイヤかながわ交流会から24名もの有志が教室に参加し、また外部の協力を得ながら運営され、さらにマスコミなどにも取り上げられたものと思われる。



環境教室

横浜市内の学校コミュニティハウスで子供たちがゴミの分別ゲームをしたあと、講師が正解をやさしく説明しているところです。子供たちはひとつひとつうなずきながら聞いていました。

第3に、活動が孤立していないことです。外部からの協力を得ながら連携をとって活動することが、運営上重要なポイントであると思います。

第4に、活動母体があることです。活動母体のダイヤかながわ交流会の親睦・交流活動の中から会員間に生まれた信頼関係が、教室の活動の素地になったものと思われます。

第5に、活動のやりがいや楽しみを感じられることです。子供たちのいきいきとした反応や、感謝の言葉、仲間との連帯意識が、活動を継続する上で重要なポイントであると思います。

### まとめ

以上述べてきたように、教室の活動は都市部在住の高齢者の社会参加活動としてユニークな例と言えますが、教室で観察された、この5つのポイントは、他の地域での企業退職高齢者の社会参加活動にとっても、成功の秘訣となるものと考えられます。今後は、活動の詳細の理解の上に立って、教室の世代間交流活動の側面に焦点を当てた研究を進めていきたいと思っています。(三好和仁)